

# 学会記事

## 2022年度第7回執行理事会議事録

日程：2023年2月11日（土）13:00-17:00

【WEB会議】

出席：岡田会長・杉田・星・中澤・緒方・内尾・尾上・加藤・狩野・亀高・小宮・坂口・高嶋・松田・矢部・山口，神谷理事

監事：岩部監事

欠席：内野，辻森，山本監事

事務局 澤木

\*定足数（過半数：10）に対し，執行理事17名の出席

\*前回22-3（1/21）議事録案確認

国際交流委員会報告では確認されている事実のみ記載する。地学教育委員会報告では，大学入試センターに関する記載を削除する。

### 報告事項

#### 1. 全体的報告

・「はじめての地質学」（ベレ出版，2017年発行）の第5刷 700部増刷決定。2023年2月7日印刷予定。総発行部数8700部。

#### 2. 運営財政部会（亀高・加藤）

##### 1) 総務委員会

<共催・後援依頼，他団体の募集，連絡等>

・国土地理協会2023年度学術研究助成の案内があった（4/17締切）→【ニュース2月号，geo-flash,HP掲載】

・第22回こどものためのジオ・カーニバル（2022/11/5-11/6 於大阪市立博物館，日本地質学会後援）の開催報告があった。参加者計585名。

・地学団体研究会より（声明）内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」について強く再考を求める（2022年1月20日付）が送付された。

<会員>

1. 今月の入会者（1名）

正会員（1名）加藤倫平

2. 今月の退会者 なし

3. 今月の逝去者 なし

4. 2023年1月末会員数

賛助27，名誉37，正会員3238 [内訳 正：3114，院割：117，学部割：7]，合計3302（昨年比-57）

<会計>

・小泉明裕会員（23/1/1逝去）ご遺族よりご寄付頂き，謹んで篤志をお受けした。

<その他>

・会員システムクラウド化：選挙機能の実装の検討を開始，テストランを開始予定。執行理事会と総務委員会メンバーで最終動作確認行う。選挙投票システムについてもシステム担当者を確認，準備を開始した。

・定款・規則・細則の階層を含む整理と内容・文体および引用整合性の確認整理を行っている。次回の執行理事会にて現時点で把握できている法体系（項目），今後の作

業方針について提示する予定。

#### 5. 広報部会（内尾・松田）

##### 1) 広報委員会（内尾）

・第14回惑星地球フォトコンテストの作品募集を締め切った。応募総数：359点（昨年比-28）（うち，一般部門281，大学・大学院部門37，中学・高校部門41）。1次審査中（WEB），2次審査（2月28日，学会事務局）を予定している。大学・中学・高校からの応募が増えて良い傾向と考えている。

##### 4. 学術研究部会（辻森・尾上・高嶋・山口）

##### 1) 行事委員会（高嶋・山口）

###### 2023京都大会

・行事委員会にて京都大会のトピックセッション・ジェネラルセッションの方針を確認し，トピックセッションの募集を開始した（3/27締切）。

・会場の当初案では，口頭会場の収容人数がやや少なかったため，300名程度収容できる会場をLOCに確保していただいた。2022早稲田大会でも立見が出るセッションがあった。会場費や立地条件（教室が離れる等）にやや難があったとしても，多数を収容可能な口頭会場を準備した方が良い。

・巡検案内書は，9コース中3つ投稿受付済み。

###### 2024山形大会と以降について

・LOCより大会日程の第1希望が出された。2024年9月8日（日）から10日（火）。

・2025年大会は，熊本大学（西日本支部）が内定。今後，西日本支部およびLOCと調整を進める。

###### 第7回ショートコース

・4月2日（日）午前9:30-12:30，午後14:00-17:00開催予定。3月号News誌とジオフラッシュで広報予定。

##### 2) 専門部会連絡委員会（尾上）

特になし

##### 3) 国際交流委員会（辻森）

特になし

##### 4) 地質標準化委員会（内野）

特になし

##### 5. 編集出版部会（狩野・小宮）

##### 1) 地質学雑誌編集委員会（小宮）

###### (1) 編集状況報告（2023年2月10日現在）

・2023年投稿論文：7 [内訳] 論説2（和文2），ノート1（和文1），レター1（和文1），巡検案内書3

査読中：19，受理済み：4

・129巻：公開済み1，入稿・校正中16

・「討論」の新規投稿があったが，討論対象となる論文が出版後30年以上経過しており，「討論」としては不適切と判断し，掲載不可とした。

##### 2) アイランドアーク編集委員会（狩野）

###### (1) 編集状況報告

・2023年発行論文が4編。2022年受理は31編（67%）であり2023年は増加させたい。2022年IFは1.341を予想（2020年と同等）。今後もぜひ投稿頂きたい。

##### 3) 企画出版委員会（松田）

特になし

#### 6. 社会貢献部会（坂口・矢部・内野）

##### 1) 地学教育委員会（坂口）

特になし

##### 2) 地質技術者教育委員会（坂口）

・JABEEシンポジウム（仮）3月5日開催。無料。ぜひ参加頂きたい。

・「地質系若者のためのキャリアビジョン誌」2/9発送。86社参加。昨年より13社増。掲載する企業側としては，教員から確実に地質系学生の手元に届く冊子は大変ありがたい。学生および大学側にとっては，実際の就職活動のみならず，学習意欲向上にも寄与している。

・地球・資源分野JABEE委員会HPについて（→審議事項へ）

##### 3) 生涯教育委員会（矢部）

・「地質の日」のオンライン講演会のテーマ等についてメール協議した。

特になし

##### 4) 地震火山地質こどもサマースクール（星）

特になし

##### 5) 地質の日（矢部）

・オンライン講演会：テーマ「日本の地質探訪—古生代から新生代まで」。演者打診中。5月13日（土）もしくは7日（日）午前中2時間程度で開催予定。

・「街中ジオ散歩in横浜」（5/14）：神奈川県立生命の星・地球博物館に共催申請を行った。

・地質の日関連行事について，学会イベントはできれば日程が重複しないような配慮が望ましいが，日程重複については5/10前後土日に集中する傾向はある程度やむを得ない。今後のイベントについては考えていきたい。

#### 7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

##### 1) 利益相反マネージメント委員会（中澤）

特になし

##### 2) 若手育成事業検討WG（内野）

特になし

##### 3) 表彰制度検討WG（中澤）

特になし

#### 8. 理事会の下に設置される委員会

##### 1) ジオパーク支援委員会（矢部）

・1/28にオンラインシンポジウム『ジオパーク地域に伝わる伝承と地質学：古代からの自然観を今に活かす』を実施し，ZoomとYouTubeライブを合わせて214名の参加があった。

##### 2) 地学オリンピック支援委員会（坂口）

一次予選2,000名エントリー。二次予選で65名に絞られる。最終的に4名が国際大会に出場予定。支部長連絡会議（杉田）

特になし

##### 3) 地質災害委員会（松田）

・関東大震災100周年に関するイベント：関東支部共同で巡検を検討中。次回理事会では報告予定。

##### 4) 名誉会員推薦委員会（星）

- ・2/9候補者の推薦を締め切った。2/13推薦委員会開催予定。
- 5) 各賞選考委員会（中澤）  
特になし
- 6) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（辻森）  
・「選挙規則の女性枠・若手枠の最低捕捉数（案）について」委員会メンバーへ意見照会を行った（→審議事項3へ）
- 7) 連携事業委員会（中澤）  
特になし
- 8) 法務委員会（中澤）  
特になし
- 9. 研究委員会
- 2) 南極地質研究委員会（委員長 大和田正明）  
特になし
- 3) 地質学研究会（委員長 川村紀子；杉田）  
特になし
- 10. その他
- 1) 地質情報展2023いわて（中澤）  
・3月10日（金）～12日（日）岩手県立博物館にて開催する。地元マスコミの後援もあり盛況が期待される。フォトコンの入賞作品はサイネージ展示を予定。市民講演会は3月11日開催。  
・2023京都大会でも、情報展を開催予定。科研費も申請予定。2024山形大会については検討中。

#### 審議事項

1. 若手活動運営委員会設立趣意書、委員会規程案について（神谷理事）  
前回指摘事項を踏まえて更新した。趣意書では将来の建設的な活動範囲の可能性を制限しないように配慮した。予定される委員の身分について正会員表記を一般会員表記に修正した。本運営委員会の「若手」の定義は「満35歳以下」とする。35歳ではポストクへの負担、40歳では高齢層で固定化される懸念、等が有り、意見が割れたが、若手の自由で建設的な活動を想定しており、満35歳以下で定義することが承認された。
2. 山田科学振興財団2023年度研究援助推薦依頼（2件分）  
2名の会員から推薦依頼があり、内容を審議し、推薦を決定した。
3. 選挙規則の改正について（岡田会長、杉田副会長）  
・選挙細則の改正（WEB投票への対応）（中澤）  
来年度選挙においてオンライン投票を実施可能とするための改正を進める。電磁的手法による投票の原則化を記載する。このほか、選挙規則について、代議員・理事とも、「立候補者の中から定数まで投票できる」ことについて現細則に記載がないため、記載する。  
・女性・若手枠および階層別充足数について（杉田）

女性・若手枠および階層別充足数について、議論を行った。  
「若手」をどのように定義するか（例：満35歳以下、40歳...など）議論があった。研究・業務で多忙な世代であり、学会運営の負担を担わせることは忍びないが、やる気のある「若手」に役員の枠をきちんと確保することは重要と考える。定義を明確にして、「若手」充足数を設定する方針が確認された。具体的な数字は継続審議。  
「女性」枠については、全国区の理事数で2割を当面の目標値とする。「女性」枠が確保されていることの意義は大きい。各地方支部枠にまで目標値を設定するのは現実的ではないため、枠指定については先ず全国区だけから始めてみる。  
「階層別構成」について、会員割合に対しての、現在の役員階層構成は適切かどうか検討する。代議員・理事構成は、階層別+若手・女性枠で2/3、残り1/3を一般枠としたい。当選者が複数枠該当となる場合は、どの枠での当選としてカウントするのか、アルゴリズムを作成しておく。  
いずれも具体的な充足数は、先の選挙実績を参考として3月4日の執行理事会に上程する。次回の支部長連絡会でも直接この趣旨を説明し支部にも理解を頂くようにしたい。

4. 地球・資源分野JABEE委員会（構成学会；地下水・応用地質・資源素材・地質）のHP管理委託について（坂口）  
JABEE委員会HP新規作成にあたり、構成学会で見積提案を行った。制作は地質学会提案のソープンに依頼することが決定した。今後HPの更新・管理を地質学会事務局に委託したい。必要なHP制作費と更新委託費は地球・資源分野JABEE委員会が負担する。具体的には、2～3か月に1回の議事録等の更新作業を行う。JABEE委員会と地質学会との間で、柔軟に見直し等が可能となるような業務契約を締結する。本件は理事会には報告事項とする。

#### 監事コメント（岩部監事）

・本日は審議が優先して行われ、大変良かったと思う。選挙に関する規則等について、十分に審議できたと評価する。

以上

2023年3月4日

一般社団法人日本地質学会  
会長（代表理事）岡田 誠  
署名人 執行理事 中澤 努

### 2022年度第8回執行理事会議事録

日 程：2023年3月4日（土）13:00～18:30  
【WEB会議】

出席：岡田会長・杉田・星・中澤・緒方・内尾・内野・加藤・亀高・坂口・高嶋・辻森・松田・矢部・山口・監事：山本監事・岩部監事  
欠席：尾上、狩野、小宮  
事務局 澤木  
\*定足数（過半数：10）に対し、執行理事15名の出席  
\*前回22-7（2/11）議事録案確認  
\*前回議事録案について承認された。

#### 報告事項

1. 全体的報告
  - ・学会のイベントにおけるマスク着用に関する新ルール（着用は原則任意/室内で密になる場面では着用を推奨/各イベント主催者が必要に応じて着用を求めることがある旨を、イベント参加者に伝える）を確認した。HP掲載等で会員へ周知する。
2. 運営財政部会（亀高・加藤）
- 1) 総務委員会  
<共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等>
  - ・令和5年度原子力規制人材育成事業新規採択事業の公募（3/23締切）【→geo-flash掲載予定】
  - ・令和5年度日本学術振興会賞受賞候補者の推薦依頼（学会締切3/20）【→geo-flash掲載予定】
  - ・令和4年度「東レ科学技術賞」及び「科学技術研究助成」「理科教育賞」の決定通知があった。令和4年度は地質学会推薦なし。
  - ・2023年度朝永振一郎記念第18回「科学の芽」賞（応募期間：令和5年8月21日～9月16日）の後援依頼があり、承諾する。
  - ・科学教育研究協議会 第69回全国研究大会・埼玉大会（8/4～6；埼玉県立与野高等学校）より後援依頼があり、承諾する。
  - ・藤原ナチュラルヒストリー振興財団より九州シンポジウム「天変地異の時代～火山列島に生きる～」(10/15；アクロス福岡)への後援依頼があり、承諾する。
- <会員>
  1. 今月の入会者(11名、いずれも2023年度からの入会)  
正会員一般（2名）平山恭之、中島淳一  
正会員学生（9名…単年度：3名、2年バック：1名、3年バック：5名）柘植悠太、中小路一真、福田圭一郎、福島 諒、奥田花也、杉浦慶、志関弘平、樋口莉央、小笠原瑞姫
  2. 今月の退会者 なし
  3. 今月の逝去者 なし
  4. 2023年2月末会員数  
賛助：27、名誉：37、正会員：3238〔正会員：3114、正（院割）会員：117、正（学部割）会員：7〕 合計 3302（昨年比-58）
  5. その他  
①2022年度未退会予定者数(95名、正会員：92名、正(院割)：3名)  
②2022年度未除籍予定者数(正会員64名)  
③今年度から新しい永年会員顕彰制度での顕彰を予定(4月理事会にて報告予定)、対象者：

顕彰年度の前年度までに40年、50年、60年、70年間の会費を納入した会員。このため、3月末までの会費納入者で対象者を抽出予定。  
<会計>

・J-STAGE投稿・査読システム使用に関わる学会負担金(¥98,700+税)を納入した。  
<その他>

・定款・規則類の整理について(加藤):

→定款と規則類の整理内容について報告があった。規則を組織別・階層別に分類した。規則には、定款に付随する規則とその他の規則があり、さらに規則に付随する細則がある。規則の整備/定款規則類の管理(最新版の管理、更新履歴の管理)/役員等への開示実施が課題と考えている。今回は定款の事務的な書式修正等を確認した。

→2023年度事業計画の学会運営の項に、規則類の整理整備について追加する。

→支部規則は、定款と主要規則の順に整理整備した後、統一した書式を例示した上で、各支部で規則を整えてもらうようにする(2023年度以降)。

・オンライン会員情報管理サイトについて(亀高):執行理事会内でテスト中。動作操作について複数の改善意見を頂いている。可能な限り修正し、3月末には、会員に開示したい。

3. 広報部会(内尾・松田)

1) 広報委員会(内尾)

・第14回惑星地球フォトコンテスト2次審査を開催した(2/28、於学会事務局)。最優秀賞を始め計12点が受賞。受賞作品は学会Instagramにも掲載を考えている。

・学会Webサイトのリニューアルについて:前回の制作から時間がたっており、機能・デザインともに現状に合わせた変更が必要。課題と技術的解決策を提示した。部分更新ではなく全面更新を想定しており、費用面、内容面について今後検討して提示していきたい。デザイン・構造については、公開されている国内外の良質なHPも参考に、スマホやタブレットでの利用も想定する。また各カテゴリーのWeb担当者(支部、委員会など)が簡易に改変更新できるようなシステムを目指す。

4. 学術研究部会(辻森・尾上・高嶋・山口)

1) 行事委員会(高嶋・山口)

・2023京都大会(高嶋):会場予約準備事務の進捗、投稿状況について報告があった。懸案であった300人教室を新たに3会場確保した。会場費15万増額(3日間3部屋の合計)となるが再度確認する。トピックセッション募集中(締切3/27)。ニュース、メルマガ等で広報している。

・2024山形大会(高嶋):日程は、9月8日~10日ではほぼ確定。会場予約等の準備中。地質情報展も山形大学で開催希望とのこと。LOCに希望を伝える。

・2025年大会(高嶋)

2025年は熊本大学で開催予定。次の理事会

報告とする。

・第7回ショートコース(山口):2023年4月2日(日)応力逆解析法について実習を通じて学ぶ内容を予定している。定員50名。

2) 専門部会連絡委員会(尾上)  
特になし。

3) 国際交流委員会(辻森)  
特になし。

4) 地質標準化委員会(内野)  
特になし。

5. 編集出版部会(狩野・小宮)

1) 地質学雑誌編集委員会(小宮)

(1)編集状況報告(2023年2月10日現在)

・2023年投稿論文:7[内訳]論説2(和文2)、ノート1(和文1)、レター1(和文1)、巡検案内書3

査読中:19、受理済み:4

・129巻:公開済み1、入稿・校正中16

・近日特集号「コンクリーション」が上梓される。冊子体購入の予約受付を開始する(会員優先)。

・受理から論文公開までに時間がかかっており、電子化のメリットが活かされていない。事務局の業務軽減や作業分担など急ぎ検討が必要。

2) アイランドアーク編集委員会(狩野)

(1)編集状況報告(辻森)

・受理原稿は他のオンライン学術誌と同様に、著者校正が終わって正式校了となるまで公開されない形となっている(その他項に詳細)。2023年になってからの投稿数が減少しており懸念事項である。

(2)その他

・2023年3月以降、Island Arcの受理原稿(Accepted Articles:AA)の早期オンライン掲載が廃止される。ワイリー社全体の方針で、背景に出版物の責任問題(出版規範委員会の定義では、AA版と正式版[Version of Record: VOR版]のどちらも出版物扱い)、取り下げ・撤回増加の懸念、ペーパーミル問題の悪化(論文作成・販売する違法組織を利用した不正論文の増加)がある。

3) 企画出版委員会(松田)

特になし。

6. 社会貢献部会(坂口・矢部・内野)

1) 地学教育委員会(坂口)

・「令和5年度大学入試共通テストの地学関連科目に関する意見書」案(→審議事項へ)

2) 地質技術者教育委員会(坂口)

・第3回JABEEシンポジウム『大学-企業の架け橋教育 ユニークな事例紹介』(3/5開催)。事前申込123名。当日参加受付可能。後日シンポの様子をYouTubeで公開予定。

3) 生涯教育委員会(矢部)

・文部科学省より令和5年度科学技術週間(4/14-4/23)協力機関登録依頼があった。地質の日関連の行事等を積極的に登録する(3/15締切)。

4) 地震火山地質こどもサマースクール(星)

・三学会連合企画委員会が2月18日にオンラインで開催された。

・2023年大会は神奈川県平塚市で8月17日-18日の2日間を予定。募集対象は小学5年から高校生まで30~40人。主な講師は、宍倉正展(産総研)・野崎 篤(平塚市博)・松原誠(防災科研)・横山 光(北翔大)・室谷智子(科博)。応募していたセコム科学技術振興財団の助成金が不採択となったため、三学会の拠出金および参加費収入により運営される予定。参加費として当初2000円が提案されたが、実験教材費や講師料(実際には講師旅費)の名目でもっと徴収すべきという意見が複数の委員から出された。「2000円の価値しかないイベント」という誤ったメッセージを保護者と教育関係者に送ることにもなりかねないという意見も出た。

・2024年大会は徳島県三次市が中心になる予定。ジオパーク認定審査との日程重複を避けるため、現地関係者は2024年7月後半~8月前半の開催を希望している。吉野川沿いの中央構造線変動地地形や和泉層群に詳しい人に講師として加わってもらう方向で、地質学会が中心になって講師を探す。

・2025年大会は御嶽山を予定。御嶽火山マイスター、名古屋大関係者、信州大教育学部関係者が中心になって開催を検討中。

5) 地質の日(矢部)

・オンライン講演会「日本の地質探訪—古生代から新生代まで」(5/13)の登壇者が確定し、広報準備を進めている。四国西子ジオミュージアム、銚子ジオパークミュージアム、糸魚川フォッサマグナミュージアムよりそれぞれ講演していただく。

・「街中ジオ散歩in横浜」(5/14)(地質学会、応用地質学会、神奈川県立生命の星・地球博物館の共催。案内者:笠間友博氏)を開催すべく、広報準備を進めている。

・惑星地球フォトコンテスト作品展示会開催予定(東京パークスギャラリー、上野公園;5/16-28)

7. その他執行理事会の下に設置される委員会及び組織

1) 利益相反マネージメント委員会(中澤)  
特になし。

2) 若手育成事業検討WG(内野)

・2023年度研究奨励金募集を2/28締め切った。10件の申請があり、審査委員会での審査を開始する。3月下旬までには採択者を決定する予定。なお、会費未納の申請者については、審査の必須条件として至急会費の納入を促す。

3) 表彰制度検討WG(中澤)

特になし。

8. 理事会の下に設置される委員会

1) ジオパーク支援委員会(矢部)

・1/28に実施した市民対象オンラインシンポジウム「ジオパーク地域に伝わる伝承と地質学:古代からの自然観を今に活かす」のアンケート結果が共有された。視聴者は最大で214人。中高年の参加が多い。参加については学会外からの情報からの参加も多

- い、とても満足満足が90%近くに到達。ジオパークガイドの方の参加が多かった。役立つシンポとなったと評価できる。
- 2) 地学オリンピック支援委員会 (坂口)  
3/12二次予選 (国内本選) がつくば市で開催予定。
- 3) 支部長連絡会議 (杉田)  
特になし。
- 4) 地質災害委員会 (松田)  
・関東大震災100年に関連した行事として、関東支部を中心に検討中。巡検は震生湖 (関東大震災による堰止湖) 日帰り巡検を予定。案内者は千木良雅弘氏 (深田研)、鈴木毅彦氏 (都立大)、笠間友博氏 (関東支部) を予定。加えてオンライン講演会の開催も検討している。
- 5) 名誉会員推薦委員会 (星)  
・審議中。3/7第2回推薦委員会開催予定。
- 6) 各賞選考委員会 (中澤)  
・選考作業が終了した。推薦理由の文面を作成中。4月理事会に上程する。  
・今年度選考に際して委員より、受賞に至らなかった場合 (落選の場合) について、その理由を推薦者に開示することが、選考の透明性の観点から必要ではないかとの意見があった。(→審議事項8.その他へ)
- 7) ジェンダー・ダイバーシティ委員会 (辻森)  
特になし。
- 8) 連携事業委員会 (中澤)  
特になし。
- 9) 法務委員会 (中澤)  
特になし。
9. 研究委員会
- 1) 南極地質研究委員会 (委員長 大和田正明)  
特になし。
- 2) 法地質学研究委員会 (委員長 川村紀子; 杉田)  
・IUGS-IFG (The IUGS Initiative on Forensic Geology) の2023年度活動予算が認められた。本予算は各国で開催される法地質学関連イベントのために使用されており、将来、日本で法地質学セッション等を開催する時に外国からの講演者を招聘する場合などに申請により活用可能である。
10. その他

特になし。

#### 審議事項

1. 地質技術者委員会及び地球・資源分野 JABEE委員会の委員交代 (坂口)  
退任: 金川久一 (千葉大学) →後任: 亀尾浩司 (千葉大学)。  
亀尾委員の任期は、金川委員の残任期間 (JABEE委員会は2024年3月末まで、地質技術者教育委員会は2024年5月末まで) とする。次回理事会にて報告・承認予定。
2. 行事委員会の交代 (高嶋)  
火山部会選出委員: 旧) 上澤真平 (電力中央研究所) →新) 石毛康介 (電力中央研究所)  
次回理事会にて報告・承認予定。
3. 地質学会中の企業ランチョンについて (高嶋)  
ブルカージャパン株式会社 (化学分析機器メーカー) より、2023京都大会でのランチョンセミナー開催の打診があった。企業展示とも異なるので、別途有償で実施していただくこととする。
4. 「令和5年度大学入試共通テストの地学関連科目に関する意見書」案について (坂口)  
大学入試センターへの意見書提出のこれまでの経緯と、関連学会の状況を確認し、地質学会として意見することが重要であると再確認し、今年も提出することとした。地学教育委員会で再度文面を確認の上、提出する。(3/10付送付)
5. 選挙細則の改正について (中澤)  
オンライン投票方法に即した改正案を作成中 (選挙細則第9条及び17条)。合わせて「投票は定数以内の連記制とする」という内容も規則文に追加予定。
6. 選挙規則の改正について (杉田)  
前回の選挙結果を基にして、女性・若手枠および階層別充足数の2案の試算を行った。方針案通り「女性」、「若手」枠を確保し、それらの立候補や活躍を後押しする学会の姿勢を示す。具体的には、先ず「所属 (階層別)」で当落を決定、その後「若手 (最低充足数)」、「女性 (最低充足数)」を満たすように各得票順位で当落を決定する (最低充足数は「所属」での当選分を含む)。「属性」で「若手」は40歳未満の正会員、「女性」は立候補時に

申告制とする。

7. 理事会審議事項の確認
- 1) 名誉会員候補者の選出 (星)
  - 2) 各賞受賞者の決定 (山路)
  - 3) 研究奨励金支給対象者の決定 (内野)
  - 4) 選挙規則類の改正 (中澤)
  - 5) 若手巡検および若手活動運営委員会設立 (下岡)
  - 6) 「学生会員」への学術大会等巡検参加費補助 (内野)
  - 7) 2022年度事業実施概要 (中澤)
  - 8) 2023年度事業計画 (岡田)
  - 9) 2022年度決算概算 (亀高)
  - 10) 2023年度予算案 (亀高)
  - 11) 支部活動報告 (理事会・総会に報告) (杉田)
  - 12) 専門部会・研究委員会活動報告 (理事会に報告) (尾上)
  - 13) 総会議案の決定 (中澤)
8. その他  
・各賞選考委員会からの「落選理由を推薦者に開示することが必要ではないか」との意見を受けて: 選考内容の客観性を担保し開示することは、推薦数増加にもつながり、良いと考えられるが、落選理由を開示することは難しく、開示している学協会はほとんどない。海外の学会で導入されているキャリアオーバー制度なども含めて、今後も継続して検討する

#### 監事コメント

(山本監事) 代議員の定数と若手理事の確保に関する議論は、重要で大変有益であった。これまでの日韓の問題の経緯を信頼できる第三者としてIUGS等に適宜報告し、日本の立場を良く理解しておいてもらう必要があると考える。  
(岩部監事) 規則類の整理について、学会活動では重要なことであり拙速に進めるのではなく、丁寧に対応を続けて頂きたい。

以上

2023年4月8日

一般社団法人日本地質学会  
会長 (代表理事) 岡田 誠  
署名人 執行理事 中澤 努

## 訃報

本会の次の方々が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

名誉会員 端山好和 (2022年2月26日)

正会員 阿部龍一 (2022年12月19日)

松井和典 (2022年3月10日)

小泉明裕 (1月1日)